



## 救われる喜び

「ここをたつて南に向かい、エルサレムからガザへ下る道に行け。」

(使徒言行録 8 章 26 節)

私たちはいま神様の前に教会建設記念礼拝をささげております。

1962年8月24日、浦和教会の平田正夫牧師が九州伝道からの帰途、銀山町に住んでおられた弟さんの平田虎雄さん宅を訪れ、そこで第1回の集会が開かれました。この日から50年たったことを感謝して記念礼拝を行っているのです。

伝道者フィリポはそれまでサマリア地方で大成功の内に伝道していましたが、そんな時に主の天使から、南に向かうよう命令を受けます。エルサレムからガザに下る道でフィリポが会ったのはただ一人の人でしたが、しかしそれはかけがえのない一人でありました。

フィリポは聖書を朗読しているエチオピア人の高官に会いました。

「読んでいることがお分かりになりますか」、「手引きしてくれる人がなければ、どうして分かりましょう」。これは、私たちにも起こりえることです。実際、私たちも自分で聖書を読んでゆくときにわからないところが必ず出て来ます。手引きしてくれる人がいなければ何もわかりません。ですから、聖書を読むときの導き手として教会の役割があり、伝道者や牧師の仕事があるのです。

またここから、福音が各地に伝わっていく時に、人を驚かすような奇跡的な出来事は必要ないことがわかります。神は広島においても、フィリポを遣わした時と同じように、伝道者を遣わされ、一人ずつ神様の救いにあずからせようとなさいます。効率的な伝道とはいえませんが、これこそ神様がお選びになった方法でありました。

エチオピア人が読んでいたところはイザヤ書 53 章の 7 節と 8 節のところ。「彼は、羊のように屠り場に引かれていった」から始

2012年10月発行

まって、「卑しめられて、その裁きも行われなかった」、「彼の命は地上から取り去られるからだ」と書いてあるのを読めば、この人でなくても「どうぞ教えてください。預言者は、だれについてこう言っているのですか」と尋ねたくもなるでしょう。

エチオピア人はここを読んで、神様の支配なさるこの世の中に、こんなことがあって良いのかと思ったでしょう。フィリポは聖書をじゅんじゅんに説いていって、この人が十字架にかかって死なれたイエス・キリストであることを説き明かしました。

まさにイエス・キリストこそ、すべての人の罪の身代わりとなって死なれたお方です。このことを知ってエチオピア人は人生の新たなスタート地点に立ちました。「ここに水があります。洗礼を受けるのに、何か妨げがあるでしょうか」という言葉に、この人のイエスをキリストと信じ、洗礼を受けて、神のものとされたいとの心からの願いが表れています。彼は洗礼を受け、喜びにあふれてその後の旅を続けました。

広島長束教会はこの50年、たいへん曲がりくねった道を歩んできましたが、困難な問題が起り、教会全体が揺れ動いた中で教会を守り抜いた力は何だったのでしょうか。

教会というのは建設することもたいへんですが、これを維持して行くこともたいへんです。それは教会を建設したと並ぶ第二の建設であり、私たちは新たに教会を建設するような思いをもって、この教会に関わって行くことを期待されているのです。

エチオピアでいまキリスト者の割合は国民の50%を超えているそうです。フィリポのただ一人に対する伝道から、二千年続いている教会が出来たのです。

神は「宣教という愚かな手段」によって信じる者を救おうとお考えになりました。神はこの広島にもみ手を伸ばして、教会を建て、一人でも多くの人を救おうとなさっています。

(2012年8月26日の礼拝説教より)

牧師 井上 豊